

# KEYAK!

12月号

先日のこどもかいへのご参加ありがとうございました。昨年度までの「盛りだくさん」とはいきませんでした。子どもたちの取り組みの姿を見て頂けて本当によかったと思っています。私は、各学年の取り組みと当日の様子を見てきましたが、年少はホップ、年中がステップ、年長でジャンプ！という時の流れを改めて感じた次第で、とてもうれしい気持ちになりました。順番に、というより年長さんたちの姿を見ることで、ああ年中でこうだったな、年少のとき今の年少さんたちのようにこうだったなあ・・・と「時を戻そう！」とした時にまざまざと感ずることなのです。同じことですが、昨年を知っている今の年長さん年中さんの保護者の方々は「成長を感じる」ということになるのでしょうか。それは去年が何か悪かったわけでは決してなくて、彼らはちゃんと歩むべき道を歩んでいることに他なりません。

げき活動は表現活動ではあるのですが、表現できればよいということではなく、実はここに幼児期に身に付けていく大切な『他者との関係』があります。他者との関係とは、人とかかわる力を身に付ける、言葉で伝えあう、きまりや約束を守る、といったものです。それらを身に付けるために子どもたちにとってふさわしい取り組みが「げき活動」ということなのです。げきようちえんで最も大切にしているこの協同的な学び、それを「仲間と共に」やってのける子どもたちに拍手です。

大人はつい、「ガンバってねー。」という。子どもたちは「あー楽しかったー。」という。

皆様は学生時代、どんなクラスが思い出として残っていますか？仲間たちと共に何かをしたり、挑戦したり、成し遂げたり、まがいなりにも雰囲気の良いクラスは印象に残っているのではないのでしょうか。これから先、直接の人との接触が希薄になったりリモートになったりして社会のしくみや関わり方が大きく変貌したとしても、みんなと一緒に生活した中で感じたこと、身に付けたものは忘れないでほしいと願います。